

平成29年度第2回樺原市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成30年2月8日（木） 午後3時～

場所：樺原市保健福祉センター南館3階 講座室1

【出席委員】伊瀬委員・上田（邦）委員・喜多委員・亀甲委員・桐山委員・小西委員・辻之内委員・藤田委員・三浦委員・森田委員・森本委員・吉川委員

【事務局】岡崎副市長・吉本教育長・辻岡教育委員会事務局局長・吉田健康部部長
竹本健康部副部長・加護健康部副部長・藤井教育委員会事務局副局長
川田健康増進課課長・辻本子育て支援課課長・井原こども未来課課長
岩本教育総務課課長・戸田学校教育課課長
森下こども未来課指導主事・溝上こども未来課課長補佐・楠田こども未来課主事

【傍聴者】0人

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 委員紹介

4. 事務局職員紹介

5. 会長・会長職務代理者選出

(司会)

この会議の会長の選任に移らせていただきます。

樺原市子ども・子育て支援事業計画冊子P77樺原市子ども・子育て会議条例をご覧下さい。条例第5条第1項に、子ども・子育て会議に、会長を置き、委員の互選により定めると規定していますので、ご協議をお願いいたします。選出方法につきましてどのようにさせていただくのがよろしいでしょうか。

一事務局一任一

(司会)

事務局一任という声があがっていますがよろしいでしょうか。

事務局としましては、前回まで会長として子ども・子育て会議を進めていただきました吉岡先生が今回委員を退任されましたので、これまで会長職務代理者を務めてくださったこと、また長らく樺原市民生児童委員を務めてくださいり、地域の事もよくご存知いただいている事などから、小西満洲男委員にお願いしたいと考えています。いかがでしょうか。

一拍手一

(司会)

それでは、小西満洲男委員を会長に決定させていただきたいと存じます。
大変恐縮ではございますが、小西委員は中央の会長席にご移動をお願いいたします。早速ですが、就任のご挨拶をいただきたいと思います。

一会長挨拶一

(司会)

ありがとうございました。
続きまして、条例第5条第3項に、「会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した委員が職務を代理する」と規定していますので、会長職務代理者の選任をさせていただきたいと思います。会長の指名となっておりますので、会長からご指名をお願いいたします。

(小西会長)

本日欠席ではありますが、天根委員にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

一拍手一

(事務局・井原)

事務局としましても、今回の会議のご案内をさせていただいた際に天根先生が欠席されるということは聞いています。ただ、今回の議事に会長・会長職務代理者の選出がありますので、もし指名された場合などにご了解いただけるかをおたずねし、「皆様がご指名ということでしたらさせていただきます」ということで聞いていますので、よろしくお願ひいたします。

(司会)

それでは、天根委員を会長職務代理者に決定させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

続きまして、次第6. 議事のほうに移っていきたいと思います。
本会議は、原則公開しなければならない事になっています。今回、会議の公平かつ厳格な運営に著しい支障が生じるような非公開事項が見込まれるような審議事項はございませんので、公開とさせていただき、会議録につきましても公表させていただく予定をしています。

本日、傍聴の方はいらっしゃいません。

それでは、これより議事に移りたいと思います。進行を会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(小西会長)

それでは議事（1）アンケートの結果報告について説明をお願いします。

6. 議事

(1) アンケート結果報告について

事務局 資料 1 について説明

(小西会長)

今事務局のほうから説明いただいた中で、何かご意見や感じたことはございますでしょうか。

(伊瀬委員)

このアンケートの有効回答数 1,054 人のうち、どれくらいの割合の方が共働きの世帯なのでしょうか。

(事務局・楠田)

設問として共働き世帯であるかどうかの問を設けていませんでしたので、結果として示す事のできるデータはありません。

なお、問 2 のデータから算出したところ、全回答数 1054 人のうち、就学前児童が 702 人、就学児童が 340 人、不明・無回答が 12 人という結果であった事を補足させていただきます。

(伊瀬委員)

設問としては、我々で協議をして設問を作っていましたが、当たり前のような事を聞くようですが、就労支援にかかる子育て支援事業である保育所や認定こども園、放課後児童クラブ等のデータを見るにあたって、この単位はどれくらいの人なのか分からないと、ひょっとしたら偏りがあるかもしれません。

(上田（邦）委員)

4 ページ問 4 にあるように、回答者のうち 93.7% が母親の立場で回答されているという結果が出ています。また、こちらは推測も含まれますが、12 ページ問 11④の職場の理解や対応はどうでしたかという内容では「働いていない」が 38.6% となっていることから、母親のうち 61.4% が働いていると読み取ることができるかと思います。奈良県は女性の就業率が全国の中で低いと言われていますが、若年層の女性の就業率は年齢別に見ると比較的に高くなっていますので、約 70% 弱くらいはあります。でもそれよりもこのアンケート結果から推測した 61.4% という数値は低いので、家にいらっしゃる少し余裕のあるお母さんを中心に回答が寄せられたのではないかと感じています。

(伊瀬委員)

今言われた根拠をもちながら、このあとの子育て系の施設を利用しましたか、という設問を見ていたときに、放課後児童クラブ、保育所等で「必要ない」と答えている方が多いように見受けられます。これだけみると施設が要らないのではないかという風に見えてしまいます。データを見るためにはどういった方が回答してくれたかという情報が無いと分かりにくかったかなと思います。また分かれば情報提供してください。

(小西会長)

今伊瀬委員からお話のあった部分については、また次回にでも調べて報告をお願いしたいと思います。

(事務局・井原)

わかりました。係の方からも申し上げたように、アンケートの集計の仕方、就学前であったり就学している児童であったりというところの内訳が示されていない事でこのような形になっているかと思いますので、その辺りを分析したいと思います。

(小西会長)

分析されて報告していただくのが分かりやすいかと思うので、お願ひします。

(事務局・井原)

そのようにいたします。

(小西会長)

そのほかにアンケート結果について何か感じられたことはありませんか。

これだけ細かくアンケート調査をしていただいているわけで、親御さんの気持ちがここに出ているという風に思っています。

藤田委員は何かございませんか。

(藤田委員)

意見というわけではないんですけども、問19の保育所に関する不満の設問で、職員の充実や教育内容の充実などを求める回答が多い結果となっていますが、私立保育園の園長をしている立場から申し上げますと、職員の兼ね合いなども考えると、実現するのはなかなかに難しいものがあると感じています。

(小西会長)

吉川委員は何かございませんか。

(吉川委員)

問11④で母親の38.6%が働いていないと回答したということで、比較的ゆとりのある方が回答されている場合が多いのかなという見方ができるかと思いますが、幼稚園のほうでも共働きの方が結構いらっしゃいます。それに対応している幼稚園もありますので、その一点だけのデータをとらえて保育園はこれ以上必要ないのではというご意見がありました、あながちそうとは言い切れないのではないかと思います。少し違う視点から見るとそう感じましたので、難しい数字だと思いました。

(小西会長)

事務局としては何か考えていますか。

(事務局・井原)

権原市では、子ども・子育て支援事業計画に沿って様々な事業を展開しているところです。こども未来課で担当しているものもあれば、子育て支援課や健康増進課の事業など、色々なものを含めてこの結果になっています。

それぞれのアンケート結果を各課にお伝えして、そこでの取り組みを再度見直してもらい、このまま継続していくべきか、強化するべき所はどこかをそれぞれ検討してもらい、より良い子育て支援に取り組んでいきたいと考えています。

(小西会長)

今日の会議で皆さんに承認していただいたものを、また各課に伝えていただいて、より良い取り組みになるよう全課をあげて進めていっていただきたいと思っています。

それではこの議事について、皆さん承認していただけますか。

－異議なし－

(小西会長)

ありがとうございます。それでは次の議題について事務局から説明をお願いします。

(2) 計画の中間年における見直しについて

事務局 資料2について説明

(小西会長)

いま中間年の見直しについて説明があったと思います。国からの指示の元に事務局が取り組んできたという事で、せっかくの機会ですので何か聞きたいことがございましたらお願いします。

(伊瀬委員)

私立保育園代表という立場でご質問を申し上げたいと思います。

まず、資料2の1ページから平成30、31年度の数値がありますが、量的にこの数値を見てみると、平成30年度の当初計画では2号認定が1,313人で見直し後も同じ数値になっていますが、0歳児が253人から110人と大幅にダウンしています。なぜ2号認定と3号認定の1,2歳児が変わらず、0歳児だけがこれだけ変わっているのか、半分以上減っています。これは大きな見込み違いであり、また計画を立てる当初にも私立保育園や幼稚園の代表からもこの人口減少の状況の中で無理があるんじゃないかというご意見を申し上げたことがあります。この変動の理由をお聞きしたいです。

また、今後ある程度どこかの保育園が収容定員を削っていかなければいけないと思います。どこが、誰がどうするのか、具体的な見通しについて、これはすぐに答弁はいただけないと思いますが、これは私立の保育園や幼稚園、幼稚園は0歳児は関係ないかもしれません、経営に対して大きな影響を及ぼしますので、このことについては必ず民間の保育園の園長さんを集めてご説明をいただきたいと

思います。これが1点目です。

2点目として、その下の方の数字を見ていきますと、確保の見込み、これは収容定員をさしていると思います。当時は認可外保育園の認可の問題もありまして、これだけ大きな数字に膨らましているんだろうと勝手に推測はしまいますけども。この合計数値についても減少しています。この理由を教えていただきたいです。

それと、先程保育士の募集のことについて事務局のほうからご説明がありましたが、民間の方でも各園とも非常に苦労して集めているというのが現状です。4月入所については1月の中旬の段階で園児が確定していますが、我々私立保育園のメンバーにとっては11月にこれぐらいと見込んで職員の確保、園児の確保の見通しを持っているわけですが、そんなことはないのかもしれません、その段階で公立の保育所の職員を募集して、樋原市の私立保育園や幼稚園から職員を引き抜くということがあれば困りますので、デリカシーを持った募集をしてほしいと思います。

3点目として、これは昨今非常に多くなっている話ですが、支援が必要なお子さんについて1月頃に入園が確定し、入園前の面談が2月くらいにされるかもしれません、その段階で分かった場合に新たに加配職員を配置していくというのが非常に難しいです。そういう意味では民間より公立のほうが経営に余裕があるのかな、人的資源も多いんじゃないかなと思います。そういったことは今後ご配慮いただかないと難しいのではないかと思っています。

具体的に当園のことを申しますと、例えばダウン症のお子さんが入所希望された場合、この方は11月の時点で分かっていたので段取りできました。できることなら私たちも看護師を配置して1:1で対応したいところですが、更にもう一人お越しになられました。これまででもダウン症のお子さんをお預かりした経験はありますが、2人体制になり、やはり0歳児のダウン症のお子さんを預かるとなると非常にセンシティブな感覚でいかなければなりません。計画とは異なる事実面の事にはなりますが、ご配慮をいただきながら計画を立てていただかないと、今後非常に困った事になるのではないかという気がいたします。

また、これはお答えをいただく必要はありませんが、平成30年度の児童の入所数を見ていますと、民間の保育園、認定こども園も含めてですが、若干0歳から1歳の園児数について、数が少なくなってきたているんじゃないかなという気がしてやみません。この辺りの人数の読みについても、出たところ勝負ではなく、もう少し11月頃に民間・公立で相談して進めていかないと、職員の手配の問題もあります。結局みんなが樋原市内で職員の引き抜き合戦をやってみたり、園児の確保合戦をしてみたり、これは一見選ぶ権利というところからすると選択肢が多くなっていいのかもしれません、今後あまりにも加熱するようになるならば、一定公立・私立の中で定員の調整をしていく必要があるのではないかと昨今感じています。

一番最後のところは私の感じるところですので、冒頭の3点、1つは定員の見込み違い、2つめは保育士の募集の時期の考え方、3つめは支援の必要なお子様の対応について、計画のところも踏まえたうえでご回答をお願いします。

(小西会長)

いま伊瀬委員からご意見がありました、これについて答えられますか。

(事務局・溝上)

まず数字についてご説明をさせていただきます。

平成28年4月現在と比べて計画値と実績に10%以上のかい離があった場合に見直すということでご説明させていただきました。その4月現在という事でとらえましたので、申請は生まれてから受け付けるため、4月の年度を越えてから申し込みが増えてくるという現状があり、その数字が反映されていません。計画数値はもともとアンケート調査をもとに出した数値という事もありますので、あくまでニーズがどこまであるのかというところで事業計画を作っています。そのため、実際の平成28年度の数値をもとに計算したところ、そこにかい離があったというところです。

ただ、先程おっしゃられたように、これによって保育所がいらないという事にはならないかと考えています。先程申し上げましたように、樋原市では待機児童が発生しているという現状がありますので、引き続き対策を進めていくことになります。

数字に関しては以上のご説明になります。よろしくお願いします。

(小西会長)

民間の保育所への説明についても伊瀬委員から問い合わせがありました、市のほうではどのように考えていますか。

(事務局・井原)

私立保育所との事務説明会であったり、私立の園とお話しする機会は年に数回設けさせていただいている。今後そういう説明会においても、このような数字の説明であったり計画を立てる部分ではそういう部分もきっちり示しながら説明会に臨んでほしいという伊瀬委員のご要望だと思いますので、課のほうでもそのように取り扱っていこうと考えています。

(小西会長)

伊瀬委員、これでよろしいでしょうか。

(伊瀬委員)

この場はこれでいいです。

(吉川委員)

伊瀬委員がおっしゃったように、平成30、31年度の3号認定の0歳児の量の見込みが、当初253人から110人に減少したとなっているのは大きなかい離だと思っているのですが、110というのは確定した数字であるのか、あるいは係数を掛けて計算された数字なのか、どちらなのでしょうか。

(事務局・溝上)

県に報告した数値です。1月末で県に出さないといけない数字でしたので、結果として事後報告になってしまった事につきましては申し訳なく思っています。

国の見直しとしては、女性の就業率も加味して出すよう指示されていましたので、それを掛け合わ

して出しています。ただ、先程も申し上げましたように、この数字を持って幼稚園や保育所を減らしていくかないといけないということではなく、今までと方針を変えずに引き続き進めていきたいと考えています。

(小西会長)

吉川委員、お分かりいただけましたか。

(吉川委員)

分かりました。

(事務局・井原)

先程、職員の募集の考え方というところで、伊瀬委員からおっしゃっていただきました。これについて、聞き取りが上手くできなかつたのですけれども、私立の保育園にお勤めされていた方が、公立のほうに移られたというケースが多々あったということでしょうか。

(伊瀬委員)

多々ということは無いと思うんですが、僕は僕の園の事しか分からないですし、他園のことは計り知れないですが、他市ではそういうことがあるんです。そういうことの心得は必要なのではないでしょうか。ある程度保育士を育てて他所に行かれてしまったという話が残念ながらこの業界の当たり前になっている感じであります。ずいぶん取られたというお話をよく耳にします。一定のルールを持ってやっていかないとややこしい事になると思います。これは公立だけではなく、人材派遣業者でも、保育職員に対して携帯やインターネットなどを通じて甘いささやきをしたり、あなたに合った職場を探しますという勧めをしたりしているようです。樺原市はそういうことをしていないとは思うんですけども、そういった保育士の引き抜き合戦になると非常に良くない、デリカシーがないと思います。そういう事例には他市で実際に遭っています。ですから、そういうことはしていただきたくないと思っています。

(事務局・井原)

市の採用試験につきましても、年度初めに募集をしています。数年前は一般事務職よりも少し保育士の採用時期が遅くなっていたこともありましたが、ここ最近は一般事務職と保育士は同時期の6月頃に募集を掛けて取り組みをしていますので、そこで一次審査、二次審査、三次審査とある中で、採用試験に臨んでもらっているところです。それ以降の正職員募集は今年度もありません。また、一般職非常勤職員としての採用募集については年が明けてから1月、2月ごろに実施しています。

(小西会長)

保育士の引き抜きがあつては困るというようなことも意見としてありますので、市のほうとしても、ないとは思いますが、できるだけそういうことのないようにだけお願いしたいと思っています。

(事務局・井原)

市としても保育士確保に取り組んで、再就職支援研修会の開催なども行っています。保育士の資格

をお持ちでご自宅にいらっしゃる方に対して、保育士として働きませんかということで取り組んでいます。その際にも必ず、市内全体を意識して私立保育園の紹介もさせていただきながら進めていますので、ご理解いただきたいと思います。

(小西会長)

市もそういう形でされていますので、ご理解のほうをお願いしたいと思います。

(藤田委員)

私立保育園について、保育士の待遇を少し改善してほしいというところが現実です。伊瀬委員もおっしゃったように、発達障がいなどを持つお子さんも年々増えてきていますし、市のほうでも補助金を考えてくれていますが、一人あたり100万円では、そのために新たに保育士を雇うということがなかなかできないです。そういうことも含めて考えていただければと思います。

(小西会長)

こういう意見もあるという事で聞いていただいて、できるだけ予算確保してほしいなと思っていますので、またよろしくお願ひいたします。

そのほかにご意見はありませんか。

中間年の見直しということで、それに向かって取り組まれていますので、時間も迫ってきますし、これで皆さん承認していただけますか。

—異議なし—

(小西会長)

ありがとうございます。それでは、次の議題へ進みます。

(3) その他

(小西会長)

議事3のその他ですが、事務局のほうで何かありますか。

(事務局・溝上)

ございません。

7. 次回の会議の日程について

平成30年7月5日（木）午後3時～（決定）

8. 閉会